

## 港区と森との出会い みなと区民の森づくり

港区があきる野市との交流事業「みなと区民の森づくり」を始めたのは、2007年のことでした。森を持たない都心の港区が、あきる野市から約20haの市有林を借り、間伐作業や林道の整備、人工林の一部を広葉樹に植え替えるなど、森づくりに挑戦。手を入れることで森は今までよりも明るくなり、CO<sub>2</sub>をたくさん吸収する元気な森に生まれ変わりました。区民の森から出た間伐材は、港区の学校や保育園の内装、家具などに活用しています。その代表が、港区の環境学習施設・エコプラザ。木の香りがやさしい、大きな木のハコのような空間です。



## 全国に広がる「みなとモデル」

森との関わりをきっかけに、港区と、全国各地の森林を持つ自治体を結ぶネットワークが広がりました。そして2009年、ネットワーク自治体の首長が全員集まって「みなと森と水サミット」をはじめて開催。地球環境のために、都市と山間部がともに木材活用と森林管理に取り組むことを宣言しました。さらに2011年10月、港区内の建物に国産木材を使用することをうながす「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」がスタート。木を伐り、使い、植えて育てるために、港区は全国多くの自治体とともに「みなとモデル」に取り組んでいます。



## 港区の生物多様性 地域戦略

2008年の生物現況調査では、都心の港区にも2,000種以上の生きものが生息・生育していることがわかりました。しかし、20年前の生物調査に比べ、一部に変化が見られました。身近な自然が変わりつつある現実を見つめ、生物多様性を保全・再生する（保全・再生）、生物多様性の重要性を多くの人々が理解し行動する（普及啓発）、世界中の生物多様性を大切に利用する（適正利用）という3つを柱に、区民、事業者、大学・研究機関、学校等とともに、港区の地域特性を反映した自然環境の保全再生の基本方針を定めようとしています。

